

科目名：健康（指導法）Ⅱ （必修2単位）		担当教員：佐藤伴哉	使用テキスト：出版社名・テキスト名	
		担当形態： 単独	保育内容・健康（同文書株式会社）、幼稚園教育要領 保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領	
科目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		施行規則に定める科目 区分又は事項等	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）
<p>授業の到達目標及びテーマ：</p> <p>領域「健康」のねらいと内容及び内容の取扱いについて理解し、健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養うために必要な知識・技術を身に付ける。特に乳幼児期の健康に関わる生活習慣や心身の発育・発達、運動発達の特徴の理解を深め、適切な指導方法を身に付ける。</p> <p>授業の概要： 乳幼児のからだ・健康管理、領域「健康」、安全教育などを理解しながら、具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を学ぶ。</p>				
回	項 目		内 容	
1	第4章 乳幼児の健康管理 6. 家庭との連携		幼児が健康的な生活リズムを身につけることの大切さを知り、保護者とともに子どもの健康を高めるための実践力を高める。	
2	第5章 領域「健康」と保育指針 1. 幼稚園教育要領の「生きる力」と領域「健康」		「生きる力」の理念と領域「健康」のねらいを踏まえ、幼児一人ひとりが保育者による援助の下で、主体性を発揮して活動ができる展開を考える。	
3	2. 幼稚園教育要領の第2章 「ねらい」及び「内容」について		5領域のそれぞれのねらいと内容を学び、理解する。	
4	3. 領域「健康」の[ねらい]及び[内容]、[内容の取扱い]について		領域「健康」の内容である10項目を選び、保育者の援助・指導・保護者との連携の下、幼児自ら自立した健康的な生活を行うための指導法を考える。	
5	4. 保育所保育指針の「保育の内容」について		「保育の内容」を理解し、乳幼児一人ひとりに相応しい援助・指導ができるように実践力を高める。	
6	第6章 指導内容 1. 基本的な生活習慣		発達段階に応じて幼児がのぞましい生活習慣を獲得し、自らの健康と生命を保持することが可能となるような援助を学ぶ。	
7	2. 健康教育の実例		幼児の意欲が喚起されるような環境の構成、充実感や満足感が味わえるような健康につながる活動を考える。	
8	3. 安全指導Ⅰ		乳幼児が園内の様々な遊具で遊ぶ状況を想定し、施設設備の安全点検に努める重要性を理解する。	
9	3. 安全指導Ⅱ		領域「健康」の内容を踏まえ、発達に即した安全指導の在り方を知る。保育者と共に行動をする中で、幼児なりに安全について考えられる指導法を学ぶ。	
10	4. 運動遊びの指導		室内の遊びに偏りがちな近年の傾向を知り、幼児自身が進んで戸外で遊びたくなるような環境の構成、遊びの提供を学ぶ。	
11	第7章 指導計画の実際 1. 指導計画の仕組み		領域「健康」の視点から、特性及び幼児の体験との関連を考慮した情報機器や教材の活用を理解する。又健康・安全を考えた基本的な生活習慣の形成、指導計画の仕組みを学ぶ。	
12	2. 指導計画を立てる		幼稚園教育要領、保育所保育指針の指導計画や評価の考え方を理解し、乳幼児の発育発達に相応しい生活を送るための計画を考える。	
13	3. 行事の計画と指導計画		様々な行事があることを知り、一つの行事に至るまでの体験の大切さを理解する。乳幼児の園生活の中に自然に取り入れられるための援助指導法を考える。ま	

		た、模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善するための視点を身に付ける。
14	4. 家庭・地域の連携と指導計画	子どもの健康が家庭や地域との密接な関係があることを認識し、家庭や地域との連携を通じた保健活動の重要性を学ぶ。また、小学校との連携を取りながら、領域「健康」において幼児が身に付けていく内容を小学校とのつながりの中で理解できるようにする。
15	5. 生活者としての保育者指導計画	保育者自身の生活が幼児の健康につながっていくことを理解し、保育者と共に生活をする中で、健康的な生活を幼児自身が考えられる計画を学ぶ。
	期末試験	
<p>参考書・参考資料：</p> <p>事例で学ぶ保育内容「健康」萌文書林、保育内容「健康」ミネルヴァ書房、切抜き速報「保育と幼児教育版」、地元紙「東奥日報」幼児関連切抜き</p>		
<p>学生に対する評価方法：</p> <p>期末試験、毎回のレポート提出などによる総合評価</p>		